

国語 第3学年 読んで考えたことをつたえ合おう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：問い、調べた方法、確かめたことの関係を読み、ありの行列についての説明に納得した理由を考える。接続する語句や指示する語句を、段落の関係を確かめるために使う。C(1)オ・C(1)カの学習として、納得カード。注目した調べ方、本文から確かめたこと、納得した理由を書き、友達のカードとの違いを追記する。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、調べ方と結果を関係付けて文章を読み、納得したことについて考えをもち、友達と感じ方の違いを伝え合っているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)オ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：納得カードを残す。注目した調べ方、本文から確かめたこと、納得した理由を書き、友達のカードとの違いを追記する。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)オ・C(1)カに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：実験や観察の方法と結果を入れ替える。知っていた昆虫の知識だけで感想を話す。接続語の名前を覚えることが目的になる。これについて、「何を確かめたかったか」「どう調べたか」「何が確かめたか」を対応させる。指示語を実際の言葉に置き換えて読み、意味がつながるかを確かめる。実際の観察は本文の読みを終えてからの発展とする。〔知識及び技能〕(1)カとC(1)オ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「調べた方法と確かめたことの関係を読むと、どの説明に納得しましたか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)オ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：納得カードは紙に記録できる。注目した調べ方、本文から確かめたこと、納得した理由を書き、友達のカードとの違いを追記する。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)オ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)オ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：ありを飼って実験しないのか。

返し：C(1)オ・カでは文章を読んで捉えたことが考えの基になる。実験の成否で読解を評価しない。本文の方法と結果の対応を言葉で説明することを中心にする。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「調べた方法と確かめたことの関係を読むと、どの説明に納得しましたか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)オ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

